

06.05.17

自ら職場を清掃

本年度から藤岡市職員



職場を清掃する藤岡市職員

「自分たちの職場は自分たちで清掃して経費節減に努めよう」と、藤岡市は本年度から市役所など市有施設で、市職員が自ら職場清掃を行っている。市財政課によると、自主清掃により、業者に委託していた清掃費が年間約千三百万円削減できるといふ。

財政事情が厳しい中で、同課の高橋巧一課長が本年度予算編成の最終段階で「歳出をもう少し削れないか」と思案した末、職員による職場清掃を打ち出した。経費削減だけでなく、「職員に危機感を持ってもらう」のも目的としている。トイレや廊下などの共用部分の清掃は従来通りに業者委託。その他の執務スペースは課単位で時間を決めて一日一回清掃している。これまでのところ、始業前に清掃している課が多いという。清掃に使うモップはリースで四十七本を契約し、各課に配布した。

三十代の男性職員は「うちの課では業務終了後に清掃作業をしており、気持ちの切り替えができるようになった」と話している。

年1130万円の削減効果

躍動感あふれる40点

ダウン症の 都内で初の個展

21日まで



都内で初開催の個展に喜ぶ小柏さん(左)と母の桂子さん

ダウン症の障害を抱え、龍太郎さん(27)の個展が二十一日まで、東

まさまざまな色の絵の具をたたくつけたような独特の作品が訪れた人たちの目を引いている。

美術関係の知人男性から都内で個展を開くことを勧められて実現。二〇〇二年から昨年までに描いた約四十点が出品されている。

日まで、京都中央区銀座八丁目の銀座アートギャラリーで開かれている。さ

小柏さんは七年前、高崎市箕郷町の画家、前嶋芳隆さんと出会い、絵画創作を始めた。「トバシ

！」と表現される躍動感あふれる作風で、各地で個展やライブペインティングを行っている。都内での個展は初めて。

小柏さんの母、桂子さん(58)は「障害があつて